くみあいNEWS

WWU WAKAYAMA WORKERS' UNION

第１５３６９号
2024年12月18日(水)
発行責任者
日本製鉄和歌山労働組合
組織教宣部

組合ＨＰ　組合 LINE

代表内線番号　和歌山地区(本部)（54)－3590
堺地区　652990／海南地区(54)－5555

日本製鉄労連が「青年女性研修会」を開催

去る 11 月 28 日（木）から 29 日（金）にかけて、日本製鉄労連初となる「青年女性研修会」が開催されました。この研修会は、青年女性委員のスキルアップや、役員同士のネットワークづくりを目的に実施され、全国各地の単組から多くの若手役員が参加するなか、和歌山労組からも青年女性対策部 3 名が参加し活発な議論と交流を行いました。

初日となる 28 日には、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて研修が行われました。冒頭、日本製鉄労連の小寺書記長から「青年女性層は全組合員の 30%を占めており、今後の日本製鉄を牽引していく存在です。若手役員の皆様は、本研修を通じて視野を広げるとともに、柔軟な発想で良識ある活動を展開していただきたい」との期待を込めた挨拶がありました。その後、日本製鉄労連が掲げる「労働政策ビジョン」に関する講義と、「青年女性活動のさらなる活性化に向けて」をテーマにしたグループワークが実施され、グループワークでは、各単組が行っている独自イベントの事例紹介や、活動上の課題・問題点について活発な意見交換が行われました。研修後の全体懇親会では、日本製鉄労連役員や各単組のメンバーと交流する機会が設けられ、横のつながりを強化する場となりました。

2 日目の 29 日には、国会見学が実施され、同行された「村田きょうこ」参議院議員からの国政報告と、WEB を通じた「郡山りょう」候補予定者からの挨拶を受け、国政や候補者の取り組みに対する理解を深める貴重な機会となりました。最後は、両名への感謝と激励を込めた寄せ書きを手渡しました。

今回の研修会を通じて、参加者は知識やスキルの向上に加え、他単組との連携の重要性を再認識しました。

今後も青年女性部では、この経験を活かし各種活動の盛り上げを図っていきますので引き続き、皆様のご協力とご参加をお願いします。







青女委員を対象にこくみん共済 coopの研修会を実施

去る 11 月 27 日（水）に、青年女性部は青年女性委員会終了後に、こくみん共済 coop の佐藤職員による「共済制度の基本について」の研修を行いました。

はじめに、こくみん共済 coop は、戦後、火事にあった職場の仲間を助けるために少しずつお金を出し合い、火災共済をつくったことがはじまりであると述べられました。次に、共済加入時の注意点について、ライフステージに合った必要保証額の見極めが重要で、保険や共済をかけすぎている人がたくさんいるなど、自身の経験をもとに事例を挙げながら説明されました。一方、火災に対しては、自分がどんなに気をつけていても、延焼によって家が燃えた場合、火元となった人に重過失がなければ損害賠償請求ができないことや、延焼を防ぐための消防隊員の放水による損害も求めることができないことから、持ち家だけでなく、マンションにお住まいの方や寮に住んでいる方も火災共済に加入し備えておくよう呼びかけられました。





皆様も、火災共済をはじめ、ライフステージの変化による保障の見直しや、マイカー共済など、お気軽にこくみん共済 coop までご相談ください。

℡：073-471-5350　担当：佐藤・森田

NSGR 和歌山ブロック
「次代を担う役員育成につながる研修会」を開催

去る１１月３０日（水）に組合会館において、ＮＳＧＲ和歌山ブロックは、職場における組合活動を支えるリーダー（核）となれる人材の育成を目的に、「次代を担う役員育成につながる研修会」を開催しました。

本研修では富士社会教育センターの松尾トレーナーをお招きし、組合活動をする上での心構えや、労働組合の基本などについての講演が行われ、各構成組織から参加した７８名は実践を交えたディスカッションを通じて、労働運動の必要性と重要性を学びました。

和歌山労組は、ＮＳＧＲと連携し、組合役員の更なるレベルアップに努めていきます。



研修会の様子



研修会の様子



POINT
村田きょうこ
特　集

「水素社会推進法案」と「CCS事業法案」について

【水素社会推進法案とは】

化石燃料に変わる新たな燃料として、水素やアンモニア等を「低炭素水素等」と定義し、その活用促進を掲げるための法案です。低炭素水素等を国内で製造・輸入して供給する事業者や、利用する事業者が、計画を作成し認定を受ければ、化石燃料よりも高額となる費用について国が支援、また拠点整備に関わる支援も行うことを定めています。

【CCS 事業法案とは】

現在の技術で２０５０年カーボンニュートラルを実現するには、徹底した省エネや脱炭素電源の利用促進などを進めると同時に、二酸化炭素の排出が避けられない産業から出た二酸化炭素を回収して地中に埋める、CCS(二酸化炭素回収・貯留、Carbon dioxide Capture and Storage)の導入が必要となります。試掘や貯留、二酸化炭素の輸送等に関する許可や規制など、この取り組を拡げていくために必要な法制度を整備するための法案です。

経済産業委員会の場における村田きょうこ氏の質問（一部抜粋）!!

村田議員：
政府は水素供給量の導入目標を産業全体で２，０００万ｔとしているが、鉄鋼業だけで ２，０００万ｔの水素が必要と試算されている中、どう考えるか？

政府参考人：
当時は、鉄で約７００万ｔ、モビリティーに６００万ｔ、発電に５００から１，０００万ｔ程度と想定していたが、水素還元製鉄に使うとしたら２，０００万ｔ必要だというお声もいただいている。更なる需要の拡大、技術の進展あるいはコストの動向なども見ながら、今後適切に見直しを図っていきたい。

村田議員：
CO2 排出事業者が CO2 貯留時に支払う料金は、どのような仕組みになっているのか、CO2 の排出量によって貯留料金を変えることは、差別的な取り扱いには当たらないのか？

政府参考人：
CO2 の貯留量や輸送量に応じて、その料金に差を設けることに規制をしていないため、料金にある程度の差が生じることもあり得ると考えている。しかし、設定された料金が特定の者を不当に差別的に取り扱う内容の場合、経済産業大臣がその料金の変更を命ずることができる仕組みとしている。

村田議員：
高炉で鉄をつくる際にできる副産物「鉄鋼スラグ」を海の中に入れると、鉄分が吸収されて昆布が増え、海での温室効果ガスの吸収量増加が期待できるのではないか。環境にも良いし CO2 も減るので、もっと鉄鋼スラグの活用を普及していったら良いと思うがどうか？

政府参考人：
鉄鋼スラグの更なる利用拡大を後押しするため、鉄鋼スラグを利用した藻場の形成や海藻を大量かつ安定的に生産する技術開発など、ブルーカーボンの蓄積に資する取り組への支援を行ってきた。引き続き、鉄鋼スラグ製品の普及拡大や公的認証の取得に向けた取り組について、事業者のニーズを踏まえて取り組んでまいりたい。



第 213 回通常国会
村田きょうこ「今回の質疑ポイント」
No. １３本紙→

組合員投稿コーナー

今回は「私の年末の過ごし方」をテーマに投稿をいただきました!



ご安全に！ 鋼管技術支部の福辺（ふくべ） 正明（まさあき）です。

私の年末の過ごし方は、毎年恒例の「年賀状」作成です。

来年の干支を自分の顔を使って表現するというのを、10年以上前から続けています。絵の具で顔に色を塗ったり、段ボールで角を作ったり、子供も強制的に参加させ、顔に色を塗ったりすることもあります。年末が近づくにつれて、今年はどうしようかと頭を悩ませています。



年々、年賀状を出す人も少なくなっていますが、これを楽しみにしてくれている人もいる？と思っているので、今でも継続しています。

さぁ、来年の干支は「巳」。どんな作品にしようかな…。

飲酒運転!!

絶対!!
ダメ!!



年末年始は忘年会や新年会などの飲み会が増える季節です。お酒を飲むことによって、判断力や注意力の低下・反応速度の遅れ・視覚機能の障害など脳や身体に悪影響をあたえます。その状態で飲酒運転や残酒運転を行うことは、運転している自分だけではなく、同乗者や、他者の命を危険にさらす行為となります。「自分は大丈夫」や「もうアルコールは抜けた」など過信せず、運転代行サービスの利用や公共交通機関を利用するなど、「飲んだら乗らない」を厳守して飲酒運転の撲滅を実現しましょう。

年末年始、皆様の安全と、周りの人の命を守るためにも交通ルールの厳守をお願いします。

（罰　　則）

酒酔い運転	5年以下の懲役又は100万円以下の罰金
酒気帯び運転	3年以下の懲役又は50万円以下の罰金

（違反点数）

違反種別	酒酔い運転	35点
	酒気帯び運転 （呼気1リットル中のアルコール濃度0.25ミリグラム以上）	25点
	酒気帯び運転 （呼気1リットル中のアルコール濃度0.15ミリグラム以上0.25ミリグラム未満）	13点